

国内/海外

## グローバルボランティア

2021-2022年度活動報告







#### グローバルボランティアとは?

「グローバルボランティア」は、普遍教育の教養展開科目「キャリアを育てる」の一科目で、全学の学生に開かれている。国内外のNPO/NGO、施設、国際機関、フィールド等におけるボランティア活動に従事し、「体験から学ぶ」機会を提供している。

2022年度はようやく海外プログラムを再開することができ、ベトナムとフィリピンへの派遣を実施した。また、昨年度に引き続き国内から「グローバル」を考えることのできる4つのプログラムを設定した。「ボランティアとは、縁がつながり生まれる財産~寄り添い、分かち合い、高め合う~である」をクラス全体の標語とし、2023年1月現在活動中の学生も含め、延べ28名の学生が参加した。

授業のねらいは、グローバル社会における課題を発見し、多様な視点から 現実社会の理解を深め、その課題と向き合っていくために必要とされる考え 方、幅広い教養、実践的な知識を身に着けることである。したがって、ボラ ンティア活動の前に目的意識を高める事前学習の受講を必須としており、活 動後も、活動から得た経験知や実践知を再び理論的知識と結びつけたり、再 構築したりしながら、自らのキャリアに繋げていくための振り返り(事後学 習)を行っていく。さらに、経験を言語化し、他者へ伝える力を育てるため の報告書の執筆についても単位修得の条件となる。

これまでの受講学生は、ボランティアとは「自分のできること」をするだけに留まらず、「自分のできることを拡げる」ことであり、「成果」よりはむしろ「プロセス」を重視した活動であることを発見した。活動は、今まで知らなかった社会を知り、周囲の人々から大きな刺激を受け成長するための「通過点」になると同時に、自分自身が周囲に対して「インフルエンサー」となる機会にもなる。活動後の学生の歩みは一様ではない。自分の知識や技術の不足を痛感し、自分の専門性について強く意識しながら今後の勉強につなげていこうとする学生もいれば、自分の適性や問題意識の根幹に気がつき、進路を変える学生もいる。

本授業の受講を通し、グローバル社会において自らが取り組むべき課題を 定め、自分なりの取り組み方を模索し、今後も向き合っていけるよう、思考 し、試行し続ける力をぜひ身につけてほしい。経験を「キャリア」に結びつ けるのも、単なる「思い出」として終わらせてしまうのも、自分次第である。

#### 授業のながれ

受講ガイダンス

ボランティア説明会

事前学習

ボランティア活動 50時間程度 +

事後学習

履修必須 ⇒ 1単位

事後学習後、活動報告書の提出 ⇒ 2単位



活動 外国につながる子どもたちの学習支援を行う、さぽうと21という団体の活動です。初回は説明会があり、 団体についての説明や、日本に暮らしている移民難民について学びました。その後、高洲教室・錦糸町教 室で対面もしくはZoomを用いてオンラインで学習支援をしました。平日は夕方15時~19時、休日は13時~17時 です。基本的には2時間連続ですが、1時間のみも相談によって可能です。主に小学生と中学生を教えていました。 学習を始める前にちょっとした雑談から入り、子ども達のやる気を引き出すよう工夫しました。そして、今からの 時間は何をするのか目標を設定してから始めていました。テスト前なので一人で黙々と宿題を進める時間にする子 もいれば、出された宿題を一緒に解いていく時間にする子もいます。子ども達の理解度や学習ペースに合わせてサ ポートできるのが良いと思いました。

ボランティアに参加する前に授業や説明会などで移民・難民について学び、慎むべき発言や行動を教わ りました。子ども達と交流するにあたっての注意点が多くあるように感じ、身構えてしまいました。しかし、 活動をして一番感じたことは「想像していたよりも『普通』だった」ということです。「普通」という表現があまり 適切ではありませんが、要するに身構えて「支援をしている」という感覚ではなく、「子どもを相手に勉強を教えて いる、一緒に勉強に取り組んでいる」という感覚でした。実際に交流を持つことで、今まで自分自身も無意識のうち に偏見を持っていたことに気付くことができました。

#### このプログラムでしか 学べないこと

講義で移民・難民について学ぶことは多いです が、机上にとどまってしまいます。海外にルーツ を持つ子どもたちと実際に交流する貴重な経験と なり、講義以外の学びの場となります。また、居 場所作りについて考えるきっかけにもなります。 個人にとって、居場所や心のよりどころとなる場 所は一つでなくともよいと思います。素の自分で いられる場所を作り出すことで、子どもたちがよ り生き生きと毎日を過ごすサポートができること にやりがいを感じました。

#### 次に参加したい ボランティア

今回は子どもと交流するプログラムでしたが、 海外にルーツを持つ大人の方々と交流するボラン ティアにも参加してみたいです。また、勉強や言 葉を教えるだけではなく、スポーツイベントや料 理、小物作りを一緒にするワークショップ型のボ ランティアにも興味を持ちました。やはり、実際 に会うことでしか感じることのできないものや学 びがあると思います。今後は対面での活動も増え てくるでしょうから、オンラインの活動と併行し て積極的に参加しようと思います。

活動

対象の生徒さん達は、自然に日本語を話していて、よくいる小中学生のようですが、学習内容や漢字の 学習などで支援を必要としています。

主に、宿題に一緒に取り組んだり、漢字テストの作成・丸付けを行いました。加えて夏休みの間は、自由研究やワー クショップ(高洲教室ではモビール作り、行徳教室ではランプ作り)のサポートをしたり、読書感想文に必要な本を 買いに付き添ったりもしました。活動前には、さぽうと21さんがZoomで事前学習の機会をとってくださり、教室 や生徒さんの背景について学んでから、参加することができました。

基本的に1人のボランティアで1、2人の生徒さんに対応するので、目の前の生徒さんにどのような方法で教えた り、接すれば良いのか考えながら取り組める点が魅力です。

体験影 個性豊かな一人一人の生徒さんと関われた事が心に残っていま

す。2ヶ月近く同じ生徒さんに関わるのは初めてで、距離を縮め たくて、名前や好きな事を覚えたり、やる気を出るような声かけや教え方を 模索した事は、教師を目指す私にとって良い経験になりました。一方で、「大 学生の私達だからできた事」はあまりなかったと後悔しています。学習支援 に行っている間は、教え方や関わり方しか振り返らなかったので、学習支援 に私たちが行く意義を再確認すれば、違う行動ができたと思います。

#### このプログラムでしか 学べないこと

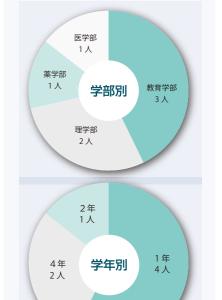
事前・事後学習で、ボランティ アについて学んだり、他の活動の 参加者から学びを得られたりする 点が魅力です。ボランティアの活 動自体もですが、私は事前学習で 得た考え方や姿勢、事後学習で 気づけた事がかなり勉強になりま した。

#### 次に参加したい ボランティア

子どもをはじめとした、若い人 に関わる活動に長期的に参加した いです。

小中高生でも社会人でもない、 大学生の今だからできる事ができ れば良いなと思います。

ただ参加するのではなく、毎回 の活動から学びや次に活かせる事 を見いだせるように取り組みたい です。



学習支援

内



活動 主な活動内容は、フェアトレードフェスタちばの開催とそれに向けた準備です。準備の大まかな流れは、 什事を分担して各自作業を進めていき、月に二回のオンラインミーティングで進捗状況を確認するという ものでした。私たち学生ボランティアが担当した具体的な仕事内容の例を挙げると、開会式・閉会式や懇親会の構成 台本を考える、SNS広報、イベントの出展団体との情報共有などです。また、イベントの直前は、対面で作業を進 めるということも何度かありました。そして、イベント当日は、開会式・閉会式の司会進行、会場を見回って出展団 体のサポートや来場者への対応などをしました。また、このイベントに加え、ペリエ千葉で行われたフェアトレード マーケットにも参加しました。

イベント参加時には運営補助をするだけでなく、勉強のために 各出展ブースを回らせていただきました。各出店団体さんの活動 へ対する熱い思いを伺うことで、私たちが向き合わなければいけない世界の 現実を知ることができ、深く考えさせられました。さらに商品にかけている 手間やこだわりについての説明を受けることで、「良い質のもの」にそれ相 当の対価を支払うことの妥当さと大切さを学ばせていただきました。

#### このプログラムでしか 学べないこと

フェアトレードに関わる活動を されている方のお話を聞いたり、 フェアトレード商品に触れたりす ることができるのはこのプログラ ムだけです。フェアトレードにつ いて授業で学ぶだけでなく、実際 に体験しながら学ぶことができる ので、より知識が深まります。

#### 次に参加したい ボランティア

安いものをつい求めてしまう私たち 学生だからこそ考えさせられるような学 びが多くあり、この学びをプログラム参 加者以外にも体験してもらいたいと思 いました。今年度は久しぶりに対面での フェスタを開催できたので、来年以降 はSNSなどの広告を活用してより多く の学生に参加をしてもらいたいです。

#### フェアトレードちば



移民コミュニティとの交流グループは、千葉大学生と日本に在住するムスリムとの、相互理解促進を目 的として活動しています。2022年度の主な活動内容は、「行徳モスク訪問」、「ムスリムの子どもたちと の交流イベントの企画・運営 |、「日本語教室への参加 | の3つとなりました。まず、千葉県行徳にあるモスクを訪問 し、ムスリムの生活について直接お話を伺いました。次に、「行徳夏祭り」と称した交流イベントを行いました。ム スリムの子どもたちにとっても日本の大学生と交流し自分の将来を考えられる機会となるように、一緒に楽しめるも のを企画しました。最後に、ムスリム女性向けの日本語教室に補助として参加し、会話をしたり、音読の相手役をし たりしました。「やさしい日本語」を使うよう意識しました。

体験影 交流イベントで、子どもたちに「楽しかった、ありがとう」と 言ってもらえたことでやりがいを感じました。初めての試みだっ たため、企画段階では具体的なイメージが共有できないことや準備時間を十 分に取れないことによる難しさを痛感しましたが、それだけに喜んでもらえ て嬉しかったです。また、モスク訪問でモスクの方々がイベントへの協力を 申し出てくれたり、日本語教室でムスリム女性がこちらに興味を持ってくれ たりし、活動全体を通して、自分がもっていた先入観に気づかされました。

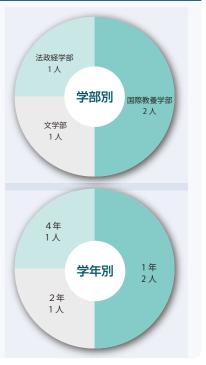
#### このプログラムでしか 学べないこと

モスク訪問やイベントでムスリ ムの人たちと交流し、彼らがいか に「普通」の存在なのかがわかり ました。何かを「教える」「やって あげる」という形態に限らず様々 な形で交流し、相手の色々な面を 知ることができるという点がこの プログラムの強みだと思います。

#### 次に参加したい ボランティア

今回交流したムスリムの子ども たちが通っているという日本語教 室や学習支援室のボランティアに 参加し、母親世代が対象の教室と の違いをみてみたいです。また、 日本人とムスリムの人たちが広く 交流できるようなイベントのボラ ンティアもやりたいと思いました。

#### 移民コミュニティとの交流









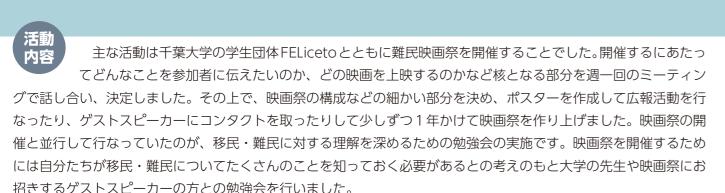






実施協力団体: 学生団体 FELiceto

国際教養学部 2年 さん



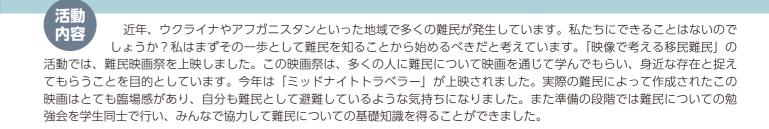
熱意を持って活動しているFELicetoのメンバーや先生と活動し、移民・難民問題に向き合っていく中でいつ の間にか自分の真剣度も向上していて、熱意は伝播するということを強く感じました。また、さまざまな問題 を先輩や専門家の豊富な知識とメンバーで考えたアイデアで乗り越え、無事映画祭を終えた時は非常に大きな達成感を得 ることができました。一方で、主催者として映画祭を開催するにあたって移民・難民問題や映画祭の運営上の問題に直面し、 日本における移民・難民問題の解決の難しさや大きなイベントを開催することの難しさを体感しました。

#### このプログラムでしか 学べないこと

事前学習はボランティア活動をより豊かなもの にしてくれました。特に、移民・難民問題のよう な社会問題を扱うためには宗教や文化などの知識 を身につけておく必要があるので、事前学習が活 動の糧となりました。また、少ない人数で映画祭 を運営しているので主体的に活動に参加できる点 で学びが大きかったです。

#### 次に参加したい ボランティア

今回は実際に移民・難民の方と接する機会がな かったので、移民・難民の方との交流がメインの ボランティアに参加してみたいです。日本語の学 習支援などの実働的な活動や今回の経験が活かせ るような地域コミュニティへの移民の参加促進の ためのイベントの企画などに興味を持っています。



映像で考える移民難民

体験影 自分は今回で2度目の難民映画祭になりました。しかし、去年はオン ライン開催であったため、全く違うものでありました。

映画祭の中で参加者と感想共有する時間があったのですが、自分が考えてもいな かった視点から意見を頂けたのは非常にありがたかったです。

感想アンケートではすべての人が大変満足と回答してくださり、難民の支援に関 わっていきたいと答えてくれていた方もいて、映画祭をやって良かったと心から思 いました。微力ではありますが、自分たちが作った映画祭によって難民に興味を持っ ていただくことができて非常に誇らしい気持ちでいっぱいです。一緒に活動してく れたメンバー、先生方、さらに参加してくださったみなさん、全員に感謝を述べた いです。ありがとうございました。

#### このプログラムでしか 学べないこと

学生が主体になって映画祭とい う非常に大きなイベントを運営す ることができます。その過程でゲ ストスピーカーや先生方の貴重な お話を聞くことができ、より難民 問題についての関心を高めること ができます。

#### 次に参加したい ボランティア

今回の映画祭では、海外の難民 について学ぶ機会が多かったた め、次は日本に暮らしている難民 について学び、彼らの支援を行っ てみたいと考えています。特に私 は言語支援に興味があるため、日 本語教室などに参加してみたい なと思っています。

#### 映像で考える移民・難民



内

映像で考える移民難民



# 海外ボランティア

VOLUNTEER WORK ABROAD



7ィリピンの大自然に囲まれた小さな島、オランゴ島で5週間ホームステイをしながら、ボランティア活動をしました。活動内容が与えられるわけではなかったので、島のあらゆる場所に足を運び、現地の人々と交流しながらお仕事を手伝いました。デイケアという幼稚園のようなところでは、子どもと遊んだり保護者に折り紙を教えたりしました。現地の小学校を訪問したり、子どもたちが学校に行かない日には外で英語や日本語を教えたり、島の観光地である野鳥保護区で観光客の管理をしたりなど、幅広い範囲で活動することができました。誰かからの指示を待つのではなく自分で判断して行動できる環境は、自身を大きく成長させたと感じています。ボランティア活動中もそれ以外でも、島の人々とコミュニケーションを取りながら過ごす時間がとても多く、とくに子どもたちはすぐに周りに集まって話しかけてきてくれるので、いつも活力をもらっていました。

場所でいる。場合ではいるとは、大きなやりがいを感じました。ボランティアには様々な形がある中で、こうして活動が直接相手の役に立ち、喜んでもらえたとその場で実感できたのは貴重な機会だったと思います。現地には日本が好きだという人が多くてとても嬉しかった上に、これを機にたくさんの人が日本について興味を持って話しかけてくれるので、濃い時間を過ごすことができました。この島で暮らして強く感じたのは、決して物質的に豊かとは言えないけれど、精神的な豊かさで溢れているということです。島の人たちはいつも笑顔で、住民同士が協力し合って暮らしていたのが印象的でした。オランゴ島は2021年12月に台風オデットによる大きな被害を受けました。家が飛ばされ、水や食料も不足し、電気も電波も繋がらないような辛い状態を乗り越えられたのは、地域の支え合いの力があったからだと実感しました。そして、今まで自分が経験したことがない環境では、新しい発見が多くありました。シャワーがなかったり、豚の丸焼きレチョンを食べたり、部屋にヤモリがたくさん住んでいたり、家の外で爆音で音楽が流れていたり…これらの忘れられない思い出は今ではとても恋しいです。

#### このプログラムでしか 学べないこと

ただ現地に行くだけでなく、 「ボランティアとは何なのか」 を考え、意見を交わすことに よって、経験がより身になった と思います。他のプログラムに 参加した人との意見交換を通し て多様な考えや価値観を吸収す ることができました。

#### 次に参加したい ボランティア

今回の活動では子どもと関わることが多かったので、例えば子どもに日本語や日本文化を教えるボランティアに参加できれば、お互いが関心を持ってより有意義な交流ができると思いました。また、言語や背景が異なる者同士の交流に大きな可能性があることを実感したので、まだ知らない環境で新しいことに挑戦してみたいと思います。



自閉症やダウン症の子どもたちが通う学校や生活している施設でのお手伝いをしました。 ベトナム滞在中はずっとこの施設の担当のクラスで活動していたので、先生や生徒と深く関われたと思います。 ただ、先生たちは英語が喋れなかったので、ジェスチャーなどを使って先生の指示をもらっていました。 最初はわからないことだらけでしたが、慣れてくると指示をもらう前に自分から行動できました。 私は7歳児のクラスを担当していましたが、カードを使って野菜の名前を覚えたり、アニメを見ながら挨拶を練習したり、時にはプールやプレイルームで遊んだりと内容は多岐にわたりました。このような授業中は先生と一緒に学習を手伝い、遊んでいる時はけがをしないように見守っていました。

体験談 前述したように、英語を使ったコミュニケーションがとれなかったのでわからないことも多く、最初は 失敗ばかりでした。例えば、初めは抱きついてきたり、軽くイタズラしたりする子達もただ可愛いなあと 思っていただけでしたが、先生たちは教育の場であることを重視されていたようで、子どもたちのお願いをききすぎ てはいけないと身振り手振りで注意してくれました。しかし、だんだん授業やベトナム語に慣れてきて、子どもたちの名前やよく聞く単語がわかるようになりました。おかげで、先生たちの指示に素早く対応できるようになって、活動がさらに楽しく、より一層やりがいを感じられました。 (H)

#### グロボラで海外に行った理由

私が海外でのボランティアを志望した理由は、自分の視野を広げたいと思ったからです。というのも、先輩たちが座談会で「想像していた以上に、グローバルボランティアの活動がその後の生活や研究・学習に強く影響した」とおっしゃっていて将来の選択肢を増やすためにぜひ参加したいと思いました。 (H)

海外ボランティアに参加した理由は「途上国」とよばれる国の現状を自分の目で見て、何を必要としているのかを肌で感じたかったからです。実際に現地の人と話すことを通じて、日本との教育に対する捉え方の違いを知り自分の視野を広げることができました。(S)

#### 次に参加したいボランティア

10月の事後報告会にて他のプログラムの発表も聞きましたが、中でも、移民コミュニティのプログラムがとても興味深かったです。ベトナムでは学校での「仕事」が最も重要だったので、県内のモスク訪問など何よりも「交流」や「相互理解」に重きをおいたボランティアに参加してみたいなと思いました。 (H)

次はアフリカなど更に経済的に厳しい国でボランティア活動を行いたいです。今回は目に見えるような成果として貢献することができなかったため、労働力や知識の援助として貢献できるようなボランティア活動がしたいと考えています。(S)

#### グロボラで海外に行った理由

出国する前のベトナムの印象はあまり良くなく、治安が 悪いという固定概念があり、ベトナム人の感じる「幸せ」 をイメージすることが難しかったです。また、これまで障 がいのある方と接する機会があまりなく、偏見を抱いてい ました。ベトナム、また障がい者に対して偏った見方しか できない自分を変えたくて、このプログラムに参加しまし た。(S)

もともと「途上国」とよばれる地域の子どもに興味があり、 授業で経験ができる千葉大学に受験を決めました。両親に 許してもらえるボランティア参加方法だと思い、自分で調べ ていくものではなく、授業としての参加を決意しました。(5)

私は将来海外で看護活動をしたいと考えており、もともと海外に行くことに興味がありました。この授業を選んだ理由は、語学留学や旅行ではなくボランティア活動をすることで、現地の人々とより密に関わることができ、その国の良い所や課題を知ることができると考えたからです。(H)

#### 次に参加したいボランティア

私は孤児院のボランティアに興味があります。将来、子どもと関わる仕事に就きたいと考えているためです。日本国内はもちろん、海外の孤児院に赴き活動し、現地の課題を知り、自分に何ができるのかを考え、微力ながらも力を尽くして現地の人たちと交流したいです。(S)

これから参加したいボランティアとしては、日本の子どもの居場所支援や将来の選択肢がさまざまな事情によって狭められてしまっている子どもへの支援、海外では、経済的に厳しい環境下の子どもや教育を受けることができていない子どもたちに関するボランティアを行っていきたいです。(S)

今回初めて海外に行って文化や生活様式の違いを実感したことで、海外から来て日本で生活している方々への関心が以前よりも強くなりました。今後は、留学生や在日外国人の方々と関わりお互いの国について知ったり、日本での生活をサポートしたりできるようなボランティアに参加したいです。(H)

12



#### Social Service 団体概要と主な活動内容

社会福祉法人日本国際社会事業団(ISSJ)は、日本に暮らす外国籍の人々、とりわけ女性や 社会福祉法人日本国際社会事業団 子どもが自信と希望をもって日本社会で生きていけるよう、ソーシャルワークを実践しています。 60年以上にわたり、時代や社会の変化に応じて、その内容を少しずつ変容させながらも、

複数の国・文化・言語にまたがって生きる人々のニーズに寄り添い、様々な活動を展開し続けてきました。現在の主な活 動は、移住者家族への生活支援とコミュニティのエンパワメント、子どもの国籍取得支援、

養子縁組とルーツ探し支援です。

2017年より、移住者コミュニティ支援の一環として「ムスリム女性のための日本語教室」 をいくつかの地域で実施しています。コロナ禍でも、女性たちが孤立を深めることのない よう、丁夫を重ねながら活動を続けています。

#### メッセージ

近年、日本国内でも、色とりどりのスカーフに身を包んだムスリム女性の姿を目にする ことが増えました。それでも、彼女たち一人ひとりがどんな思いを抱きながら、どんな風に、 文化も習慣も言語も異なる日本で生活しているかを知る機会は多くありません。

大学生には、日本語教室や課外活動への参加を通して、彼女たちの生活を知り、その想 いやユニークさを感じていただければと思っています。



#### 団体概要と主な活動内容

さぽうと21は、日本に暮らす難民、日系定住者など、定住外国人の方々の自立を、主に教育 の側面から支援する活動を続けています。活動の柱は、「就学支援金の支給」「相談対応」「学習 支援」の3つの事業です。中でも「学習支援」の活動は、150名以上のボランティアの方々の「じ んりょく(尽力・人力) | なしでは成り立たない事業と言えます。東京、千葉、計4か所での

対面型学習支援、連日開催されるオンライン型学習支援、個別のニーズにスポットで対応していくアウトリーチ(出張) 型学習支援を組み合わせ、「一人も取り残さない」を目標に掲げて活動を継続しています。コロナ禍にありながら、参加者 が減ることはなく、2022年には、ロヒンギャ難民二世の小中学生を対象とした「オンライン上の学校」もスタートしま した。日本語、学校教科の補習にとどまらず、ピアノや簿記など、学習者のニーズと求めに広く対応しています。

「自由な学び舎」がそこにあります。

「困ったときはお互いさま」が、さぽうと21の活動の合言葉です。困っている人 がいれば、何か自分にもできないかと考え、そして行動する。難民等への学習支援 という活動は、多様な人々とやりとりを重ねる中で互いに理解し合えていく楽しさ を知り、「わかった!」ときに思わずハイタッチしたくなるような喜びを分かち合 える、そんな活動です。そして、参加するわたしたちは、目の前の子どもたち、大 人たちから世界を知り、読み解き、自身と向き合い、見つめ直すきっかけをもらっ ています。



#### FAIR TRADE CHIBA

#### フェアトレード **ちば**∕►

#### 団体概要と主な活動内容

フェアトレードちばは、千葉県からフェアトレードのあるライフスタイルを啓発していくこと を目的に、催事や勉強会の開催、ネットワーク化などを行っています。

毎年フェアトレード月間の5月に、千葉県内のフェアトレード団体と啓発イベントを開催しています。月2回のオンライ ン会議が中心で、たまに対面で集まったりイベントをしています。また、勉強会などの開催、フェアトレード団体のリスト 化などにも挑戦中です。

#### メッセージ

月2回の会議は現在オンラインZoomで開催しています。"千葉県にフェアトレー ドを広げる"目的のもと、一人一人が挑戦しそれを支え合うチーム作りにも協力く ださい。Googleオンラインツールでの書類の共有や共同編集、SNSを活用した広 報などに不安がなく、パソコンと安定したインターネット環境があることが条件と なります。一緒に楽しくフェアトレードを千葉から広げましょう!





#### 団体概要と主な活動内容

NPO法人グッドは、ワークキャンプという合宿型のボランティアを通じて、若者のきっか け作りを応援している団体です。スリランカの農村で井戸堀りをしたり、タイの山岳少数民族 の村で道路づくりをしたり、国内では地域の農作業のお手伝いなどを行っています。実際に足

を運ぶことで、地域の実際の姿や抱える社会問題を肌で感じることができます。プログラムには、大学生を中心に高校生、 社会人、外国人、フリーターなど、全国各地から幅広い年代、背景の若者が参加します。学外の人との関わりを通して、 視野が広がり、研究の新しい視点を得ることができるはずです。海外プログラムは、主に長期休暇の期間に実施し、国内 プログラムは、GWや週末など、さまざまな時期に実施しています。

#### メッセージ

長く自粛期間を過ごしてきた皆さんの中には、課外活動に参加することに不安を感 じる方もいらっしゃるのではないでしょうか。そんな人こそ、是非、私たちの活動に 参加してみてください。ワークキャンプでは、全日程スタッフが引率し、サポートし ますので、一人でも、初めての参加でも大丈夫です。英語に自信が無くても問題あり ません。大学生は、動いた分だけ世界が広がる時期です。勇気を出して新しい一歩を 踏み出してみませんか?





ICYE(International Cultural Youth Exchange)は1949年終戦直後、アメリカとドイツ の間で、青年の交換事業・奉仕活動を通して互いの文化を学び、理解を深め合う事で平和を 構築していくというビジョンのもと発足しました。今日まで70年以上続く歴史ある団体です。

国際ワークキャンプ (10日~)、サンフランシスコ低所得者支援・教育・福祉、ベトナム児童福祉、インドネシア日本 語教育プログラム (2-3週間~)、中南米・アフリカ・アジア・欧州中期STePs (3-4週以上)、世界40カ国でのボラン ティア留学(6ヶ月以上)そして、来日事業を世界60ヶ国のパートナー団体と共に運営しています。世界中の青年の国 際的な学びのプラットフォームを担っています。

#### メッセージ

活動先での「温度」「匂い」「音」街を歩きながら、現地の人との会話、生活の中で 感じる「雰囲気」「色」「質感」それらは異文化理解において重要な側面を持っています。 どんなに巧みな言葉でも、現地で感じる、言葉にならないほどの多様で大きな世界を 説明することはできません。学生の皆様には是非それを感じて欲しいと思います。皆 さんの中の「世界に挑戦したい!」気持ちをICYEスタッフ一同でサポートいたします。



15



#### 団体概要と主な活動内容

レソト王国のハ・セカンツィという小さな村で村の人々の生活向上のためにコミュニティ ベースで活動を行っています。これまでにスキルトレーニングやリタラシープロジェクト、 ミシンのプロジェクト等を通して村の人々の経済状況や教育環境の向上やエンパワーメント

を実現させてきました。現在もそれらを行いながら、2021年から新しくカメラを使った教育活動や村の中に施設を建設 するプロジェクトも始めています。本団体のメンバーのみで活動を行うのではなく、村の人々と対話をし、協力しながら 活動を行っています。本プログラムは基本的にレソトの首都と村を行き来しながら活動を行います。首都では行政の方と ミーティングを行うこともあれば、村で撮影した動画を編集したりすることもあります。村では村の生活を村人から教え てもらいながら活動をします。

#### メッセージ

本プログラムは始まったばかりの新しいもので、まだ駆け出しのプログラムに参加 し、コミュニティの人々と対話を繰り返しながら行っていくのが特徴です。だからこ そ現地の人々により寄り添った活動ができるのに加え、参加者の皆さんが現地でやっ てみたいと思ったことを新しいプロジェクトとして実行できるかもしれません。想定 外のことが起きることもありますが、それも含めて多くのことに挑戦したい方にオス スメのプログラムです。

# PAST PARTUIPANTS

過去の海外プログラム参加者

## 2013-202

### 世界地図で見るグローバルボランテ



ニュージーランド

2016 CIEE K.N

U

M

2019 CIEE M

2018 2018	CIEE NICE	U M
カナダ 2014	CIEE	A.T
カンボミ 2017 2017	バア NICE NICE	
グルジフ 2014	NICE	Y.T
ケニア 2019	NICE	М

2019 NICE N

アメリカ

スリラン	ノカ	
2014	good!	T.N
2014	good!	S.A
2015	good!	Y.I, S.T, H.T
2016	good!	
	H.I, A	.O, M.S, Y.S, S.R
2017	good!	0
2018	good!	Н
タイ		
2014	NICE	S.M
2016	NICE	Y.A, Y.N, R.K
タンザニ	ニア	
2018	NICE	W

ドイツ

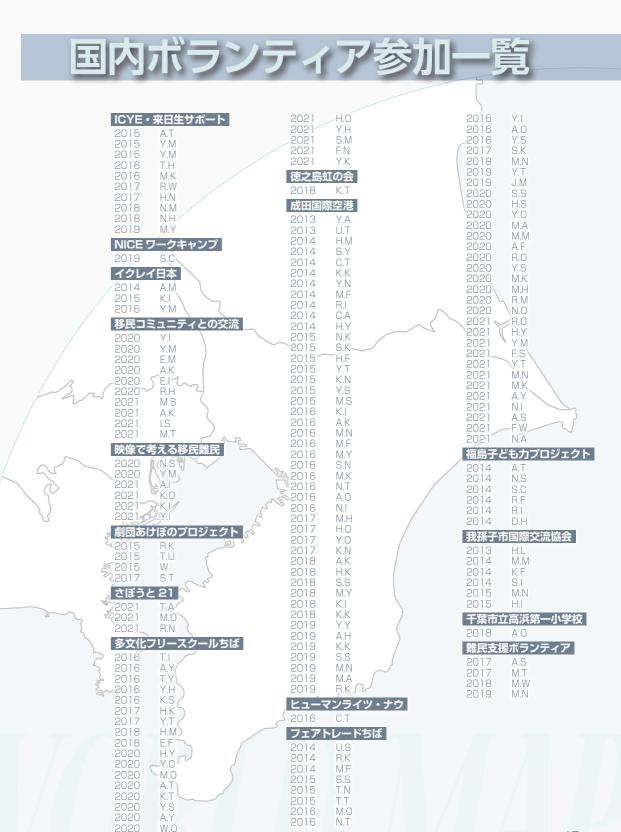
2015

2016

2019 NICE K

	guuu: T.I, J.T, TI.T		<b>ネハール</b>			
	good!		2014	ICYE	Y.S	
	H.I, A.O, M.S, Y.S, S.R		フィリ	<b> </b>		
	good!	0			тт	
	good!	Н	2014	NICE	T.T	
	B00u.		2014	NICE	Y.M	
			2014	NICE	A.A	
	NICE	S.M	2017	ICYE	Ν	
	NICE	Y.A, Y.N, R.K	2018	ICYE	M	
Ξ	ア		2019	NICE	U	
	NICE	W	2019	ハロハロ	□×DAWN	
,			2020	セブンフ	スピリット	
	CIEE	A.A	フィン	<b>/ランド</b>		
	NICE	T.T				
	IVIOL	1.1	2016	NICE		

フランス		
2018	NICE	K
ベトナム	<b>V</b>	
2013	ICYE	M.H
ボリビア		
2016	NICE	R.I
メキシコ	1	
2015	ICYE	N.I
モザンヒ	ニーク	
2018	NICE	0
モルドハ		
2019	NICE	A
モンゴル	,	
2014	NICE	A.O
2017	gnndl	



スイス

#### 帰国して終わりじゃない、その後も行動する力を養う

#### きっかけ

高校の時に語学留学でフィリピンに訪れたことが大きなきっかけです。同じ語学学校に通っていた日本人の友人たちとスラムにいく機会があったのですが、7~17歳くらいの子達を見て、かわいそうと嘆く日本の友人たちに疑問を持ちました。

日本ではかわいそうという気持ちから海外に寄付したり、ボランティアする人が多いですが、本当にその感情が正しいのか疑問を持ち、グロボラでフィリピンに行くことを決めました。そのため、大勢でのプログラムではなく、ICYEというエージェントを通し1人で現地のNPOに入っていくプログラムに応募しました。

#### 参加

フィリピン・セブ島のスラム街で、貧困家庭の子どもたちに奨学金を提供している団体で1ヶ月半ボランティアしました。その団体もボランティアを受け入れることは初めてだったので、自ら仕事を見つけることから始まりました。最初はソーシャルワーカーが行う家庭訪問について行ったり、現地の子どもたちと日々話すことに努めました。その後、自ら勉強のチューター業務を始めたり、団体の資料を日本語に訳したり仕事を作ってみました。

現地で過ごすうちに、自分がしたかったことが、子どもたちや生徒たちの「支援」ではなく、彼らと対等な立場で一緒に考えて、お互いに学びを得ることなんだと気づくことができました。

#### 参加管

1年次のフィリピンでの経験をもとに、自分が今後社会とどう関わっていきたいかという軸ができた気がします。その後、軸を元に、より自分のやりたいことを明確化するために、日本のNPOで働いてみたり、自分自身の研究でも、その軸を反映させた題材を扱いました。

キャリアを選択する際にも、会社のビジョンや風土を 1番に確認して、自分の軸に合っている会社を選びました。現在は、外資系のIT企業で働く傍ら、日本のNPO でも働かせていただいています。千葉でのNPOの活動 を知りたい方は是非「多文化フリースクールちば」に訪れてみてください!





#### 永山滉大さん

#### **TURNING POINT 1**

#### 1年 夏 グロボラ フィリピン

フィリピンの同世代の子達の状況を知りたいと思い、グロボラに参加しました。セブのスラムに位置するNPOで働きました。何か「支援」をするのではなく、彼らと共に日々考えることを自分はしたいのだと実感することができました。

#### **TURNING POINT 2**

#### 1年 春~2年 春 NPO法人ETIC.にて長期インターン

帰国後、日本でも何かしたいと思いNPOの中間支援を行っている団体で一年働きました。ここで働いたことで、社会に貢献することを一時的に行うのではなく、継続で行うことの重要性とそのための仕組みなどを知ることができたと思います。

#### **TURNING POINT 3**

#### 3年 夏~4年 春 イギリス派遣留学

先進国での社会課題解決事例をより知りたいと思い、イギリスに留学しました。実際には日々イギリスの若者の社会に対する行動から学ぶことが多く、同世代の学生が道に座っているホームレスに気軽に話しかけるなど、日本の同世代とは違う意識と行動から学ぶことがありました。

#### TURNING POINT 4

#### 4年冬~現在

#### 多文化フリースクールちばでインターン

コロナウイルスで社会が変化した時期に、千葉のNPOで本格的に働くことになりました。いち学生ではありますが、事務局の1人として働く経験を通し、社会人になった今でも実際のNPOの経営や運営など学ばせていただいています。

#### PROFILE

参加時期:2017年度夏・1年生 プログラム:ICYE フィリピン

#### 世界への扉を開いたスリランカワークキャンプ



#### きっかけ

私は中学、高校と部活と勉強で忙しい日々を送っており、なかなかそれ以外に取り組む時間がありませんでした。そのため大学では、いろんな経験を積んで視野を広げたいと思っていました。特に海外に長い期間渡航できるのは学生の特権だと感じ、いろんな国に行ってみたいと思っていたところ、プログラムの説明会がありました。参加経験者の学生さんが目を輝かせながら、日本に居ては想像できないような生活や経験を語られていて、純粋にボランティアがしたいという気持ちより、貴重な体験をしてみたいという気持ちで参加を決めました。

#### 参加

私が参加したキャンプでは、ある田舎の村の道路舗装を行いました。大雨が降ると唯一の生活道路がぬかるみ、病院やスーパーのある都市部に移動できなくなるためこの作業が必要でした。2週間に及ぶ作業期間、参加者は一人ずつ現地のご家庭にホームステイをして生活しました。言葉も通じない中ホストファミリーの温かさに触れたり、川で水浴びをするなど驚きの連続の生活を送る中で、幸せと経済的な豊かさについて考え、自分が育ってきた環境や日本の事を客観視する貴重な機会になりました。また、ボランティアは自己犠牲だと思っていましたが、活動の中でたくさんの仲間や貴重な経験など沢山のことを与えてもらい、ボランティアのイメージが変わりました。さらに、この団体のワークキャンプでは参加者同士の対話も大切にしており、これまでの人生や自分の悩みなどについてシェアする事で人との繋がりをより深く感じる事ができました。

#### 参加後

ワークキャンプに参加したことで心境の変化が大きく 二つありました。まず一つ目は、自分が生活している"小 さな世界"の外に出たことで、他の国で起こる出来事を 身近に感じるようになったことです。参加後、周囲の友 人の影響もあり特に難民問題に興味を持ち、毎年「難民 映画祭」のボランティアを行っていました。また、難民 問題への興味から派生し、日本で生活されている"難民 申請者"の方にも関心をもち、日本の入国管理の制度と その問題点について卒業論文を書きました。

二つ目は、自分がいかに経済的に恵まれた環境に置かれているかを実感した事です。「挑戦する機会があることは当たり前ではない」と現地の人に言われた事が忘れられず、この言葉が長期留学に挑戦する大きな原動力になりました。

#### 吉原七帆さん

#### PROFILE

参加時期:2017年度・1年生

プログラム: good!

スリランカボランティア

ワークキャンプ

#### TURNING POINT 1

1年夏 スリランカボランティアワークキャンプ 自分の知らない世界を知り、沢山の人に会い、視野が

広がりました。 この後の大学生活でもっと広い世界をみたい、挑戦したいと思うきっかけになりました。

自分の"当たり前"について改めて考える時間になりました。

#### TURNING POINT 2

#### 1年 冬 外務省主催KAKEHASHI PROJECT

1週間カナダの政府機関を視察しました。 カナダ国民や政府内部 (議員など) の多様性に驚き、 感銘を受けました。

日本文化のプレゼンでは、少し違った視点から自国 の文化を捉える機会となりました。

#### **TURNING POINT 3**

#### 2年夏~3年春 カナダ長期留学

1ヶ月の語学研修に自主参加したのち、同大学で心理学を専攻 しました。

ここでも生徒の多様性や、留学生への柔軟な対応に驚きました。 難民支援活動を行っている学生団体にも所属し、シリアから避 難されてきた学生さんと共にファンドレイジングイベントや啓 発活動を行いました。

#### TURNING POINT 4 3年冬 就職活動

#### 自分の進路について、これまで の経験や理想と現実のギャップ に大変悩みました。

#### 現在

#### 日本赤十字社千葉県支部 職員

自分が一番大切だと思う人々の"命と健康"を守る事ができるような会社を選びました。 現在は献血ルームのスタッフとして勤務しています。

#### グロボラをきっかけに広がった世界

#### きっかけ

千葉大学に入学してすぐのガイダンスでグローバルボランティアという授業を知りました。地方から入学し、一人暮らしを始めたばかりの私は、海外に行く勇気は無いものの、何かボランティア活動に関わってみたいと考えていました。そこで、国内のプログラムの中から、「フェアトレードちば」を選びました。地元熊本はフェアトレードが盛んな地域であることもあり、なんとなく親近感があったのが理由です。グローバルボランティア=海外のイメージがありますが、国内でも国際的な課題について考えながら活動することが可能なところがこの授業の良さだと思います。

#### 参り

海外での活動とは異なり、私の活動は「フェアトレードの啓発」のために、何を実施するか自ら考え、動く活動でした。私の場合は、年1回千葉で開かれるフェアトレードイベントに合わせ、千葉大でフェアトレードを知ってもらうためのミニイベントを企画しました。コンセプトから大学内での打ち合わせ、資料まで自分の手づくり。全てが初めての経験でした。今振り返ってみると、周りの方に支えられ、イベントの内容も資料も決して完成度が高いものではなかったと思います。しかし、最後までやり遂げたことが

私の財産になりました。その後の活動の 繋がりも考えると、様々な活動に目を向 けた大学時代の礎になった経験だったと 思います。



#### 参加管

フェアトレードちばの活動から、活動する前に関連する社会課題について学ぶ大切さと自ら想いを持って動けば何かを成し遂げられることを学びました。履修後は、そこからはボランティアを軸に多種多様なことに取り組みました。災害復旧のボランティア(福島・岩手など)やボランティアを広めるイベントの企画、大学の学生団体の運営などなど…。大学の早いうちにグローバルボランティアで自ら動く活動をしたことで、そのあとの活動に参加する心理的なハードルが低くなりました。「大学生」は社会に出ているとはいえ、まだまだ挑戦と失敗ができる時期だと思います。ぜひ、なんとなくでも関心があることを学んで挑戦をしてほしいなと思います。



#### 田代智也さん

#### TURNING POINT 1

#### 福島災害ボランティア (2015年)

大学生になったら、やりたいと思っていた東日本大震災復興ボランティア。日本財団「Gakuvo」の研修に参加するも、活動するどころか引率の方に注意され、自らの未熟さを実感しました。その後の大学生活の基礎となる経験に。

#### **TURNING POINT 2**

#### グローバルボランティア(2015~2018年)

履修のみならず、OBやSAとして4年間関わらせていただきました。履修時のイベント開催をはじめ、相談を受けたり報告書を編集したり…千葉大学で4年間ベースとなっていた活動です。

#### **TURNING POINT 3**

#### 熊本地震(2016年)

突如として地元に起こった二度の震度7。募金活動などをしたものの、ボランティアに関わっていながら現地に行けなかったもどかしさは、今でも思い出すことがあります。就職を地元ですると決めたきっかけにも。

#### **TURNING POINT 4**

#### good! モンゴルキャンプ (2017年)

当時の私日く、「人生がひっくり返った」。モンゴルの圧倒的自然を前に、自分に向き合い、悩み続けた2週間でした。今の私の生き方を形作ったとも言っても過言ではないかもしれません。

#### TURNING POINT 5

イベント「みどり台パントリー」運営参加(2018年~2019年) 4年生になって参画した商店街マルシェイベント。私の就活は、夜な夜な商店街の有志の皆さんと話し合う日々と共にありました。大学の外で活動するのも多様な価値観が知れておすすめです。就活中は推奨しませんが…!

#### PROFILE

参加時期:2015年度・1年生 プログラム:フェアトレードちば

#### 考え、行動する力を養ったグロボラ



#### きっかけ

子どもの頃から、日本と異なる文化に興味を持っていて、 大学生になったら留学したい、と思っていました。しかし、 これといった目標がなかったため、旅行止まりになってい ました。転機は2年の夏にカンボジアでのスタディツアー へ参加したことでした。現地の孤児院で子どもたちと接す ることで、海外で生活に密着した活動がしたいという思い が生まれ、「それなら海外ボランティアだ」と思い、グロ ボラを受講しました。 フィンランドで各国からのボランティアと2週間活動をしました。派遣先は中東やアフリカからの難民が学び生活する学校でした。初めて難民と呼ばれる人と出会い、故郷を離れた理由や逃れてきた場所でも厳しい環境であることを知りました。彼らに何か支援ができないかと思い、フィンランドへ戻り1年間TAとして活動しました。読み書きを学ぶ機会のなかった人が自分の名前を書けるようになるには、算数が理解できるようになるには…自分にできることを考え積み重ねていくことで、生徒の笑顔を見られたことが何より嬉しく、やりがいでした。

#### 参加的

難民の人と出会ったことは偶然的でしたが、出会ったからこそ、1人でも多くの人に難民問題を考えるきっかけとなる場を提供することが使命だと感じました。そして同じ志をもった学生と難民映画祭を開催しました。参加者から反響をいただき、その後も継続して開催されました。

映画を通して1人の人としての彼らを知り、この問題を考えることで、多様な意見が他者と共有され、大きな輪となって直接的な難民支援になると信じています。

グロボラに参加したことで、様々なことに関心を持ち、自分で考え、そして行動する力を養いました。卒業から数年経ちましたが、今でも自分の軸となり、人生を豊かにしてくれていると感じています。

#### 渕上栄実香さん

#### PROFILE

参加時期:2016年度・3年生 プログラム:フィンランド

#### **TURNING POINT 1**

#### 2年 夏

カンボジアに行ってみたいという気軽 な理由で参加しましたが、海外ボラン ティアを知るきっかけとなりました。

#### **TURNING POINT 2**

#### 3年 冬

3年冬 フィンランドのフォルケホイスコーレで ワーキャンに参加し、難民の人と出会いました。 世界で起きている問題について向き合うきっかけ でした。

#### **TURNING POINT 3**

#### 4年 夏~休学

1年間、フィンランドの学校でTAとして難民向 けクラスの支援をしていました。同じ寮に住み寝 食を共にしたことで、かけがえのない友人にもな りました。

#### TURNING POINT 4

#### 4年 冬

4年冬 難民問題を考えるきっかけとなる場を提供 したいと思い、難民映画祭の学生責任者として、誘 致や集客をしました。



坂東 (司会) これから座談会を始めたいと思います。まず 自己紹介からしていきたいと思います。工学部4年、坂東で す。1年生の時にウガンダに行ってました。



須崎 国際教養学部4年生の須崎です。3年生の時に移民 コミュニティという国内プログラムに参加していました。

**鈴木** 国際教養学部3年の鈴木です。1年の時に国内のフェアトレードちばのボランティアに参加していました。

**鳶田** 文学部2年の鳶田です。今年の夏にフィリピンのプログラムに参加しました。

平井 法政経学部2年の平井です。今年の夏にベトナムに 行きました。

司会 では、プログラムを通して何をしてきたかとか、勉強になったなと思うこととかもうちょっと詳しく聞きたいと思います。

平井 私は自閉症の子どもたちのいる学校で、授業のお手 伝いなど、ずっと同じクラスで活動してて、先生たちは英 語が話せないので、ベトナム語の単語をちょっとずつ覚え ながら、その指示をくみとってがんばってお手伝いをして ました。自閉症児の教育というのを国内で学んだことがな

かったので、それがすごく勉強になりました。

意田 私はフィリピンのすごい小さい島でボランティアをしてきました。ボランティア活動が特に決まっていなくて、着いた時から自分で何をしようかなというふうに探しながら生活する感じでした。一番大きく活動した内容としては、フィリピンの島の子どもたちが週に2回ぐらいしか学校に行ってなかったので、その他の暇な時間で数学とか英語を教える活動でした。

新木 私は国内でフェアトレード事業者の方をサポートするという活動だったんですけど、5月にフェアトレード月間って世界で決められてるものがあって、その5月に行われるフェアトレードフェスタちばというイベントに向けて、自分たちでフェアトレードに関する知識を勉強したり、あとは事業者さんと交流したり、記事を執筆したりしていました。

須崎 私は移民コミュニティプログラムに参加して、千葉県の行徳に住んでいらっしゃるムスリムの方たちがどういう生活をしているのかというのがわかるようなマップを作成して、その中で許可を取りに行きがてらいろんなお店に行ったりとか。あとはヒラーモスクというモスクがあるんですけど、そこにちょっとお邪魔してお話を聞いたりとか、そういう学びの方が大きい感じのプログラムでした。

司会 ありがとうございます。行く前後の心境の変化を聞きたいんですけど、誰かから発表していただけますか。

鈴木 何かフェアトレードって聞いたら、やっぱりその社会的に弱い立場の人を助けるみたいな感じで、いわゆる発展途上国の人の生活環境を改善するためのお買い物みたいなイメージをすると思うんですけど、私の時は2020年のコロナまっただ中にボランティアに入ったので、オンラインでしか活動ができなくて、あとはもう千葉県内とか千葉市の活動しかできなくて。そこで、地産地消のローカルフェアトレードとか、ウェルフェアトレードといわれる障害者支援とかにかかわって、身近でもできる、ローカルで

もできることがあるんだなというのを知りました。それで 世界的でなくて身近でもフェアトレードって実践できるん だなというのをやった後にちょっと見方が変わりました。

司会 国内と海外のフェアトレード。海外だと生産者にお 金が戻ってないからフェアトレードしようみたいなイメージ があったんですけど、国内もそんな感じなんですか。

鈴木 そうですね、生産者に適切な給料を支払うという意味では、障害者の方がクッキーを作って売ったりするウェルフェアトレードみたいなお店が千葉大の近くにあります。就業支援とかも含めてやってて、見学に行ってお店の背景を知って、商品を買おうみたいなことについて記事を書いたりしたんですけど、自分の身近でもそういうことって実践できるんだなと思いました。広義な意味でもフェアトレードととらえることができる。

司会 行ってる最中に、海外でもフェアトレードを目にしたこととかありましたか。



意田 私が行ったところでは海外からの輸入品というのも、本当に大きなショッピングモールとかスーパーとかに行かないと目にしなかったので、地元の人たちが、もう値札もついてないような鶏を売ってたりとか。そういうのが多かったので、そっちの方がイメージが強いです。

司会 ありがとうございます。みなさんの中で、参加の前後で心境の変化があった方、いますか?

平井 私がベトナムに行って一番驚いたのが、ベトナム人の方の国際交流への積極性です。英語を覚えることにも 貪欲で、通りすがりの知らない人とかが英語でいきなり、 Where are you from ?と聞いてきたりとか、何かそうい う姿勢が日本人とちょっと違うなと思って。ベトナムって 2000年以降すごく経済が急激に成長しているらしくて、 そういうのも要因なのかなと考えると、日本のグローバル 化の遅れみたいなものが気になるようになって。英語の授業でイギリス人の先生が、日本はまだファックスを使って るなんておかしいと言ってて、何かその発言が海外に行く 前より、行った後にちょっと重く感じたというか。だから 将来、具体的には全然決まってないですけど、グローバル

24

化を推進できるような仕事とか活動とかができたらいいなど思いました。

司 会 現地はベトナム語と英語の両方をしゃべるんですか。

平井 ほとんどベトナム語ですが、英語を学ぶ制度がよいのか、話せる人は本当に80%話せる。話せない人はまったくサンキューもわからないみたいな感じだったんですけど、ボランティアスタッフの方は当然のように英語をしゃべれますし、カフェとか行くと、ベトナム語がわからないと気付いたらすぐ流暢な英語で返してくださったりとか、そういうのがあったので、何かベトナムに行ったらベトナム語しかしゃべれないと思っていたからすごく衝撃でした。英語は普及してました。

司会 現地は子どもたちも英語を。

平井 子どもたちは自閉症を持ってる子どもたちなのでそもそも話が得意ではなかったりするので、ベトナム語は理解できるけど自分たちからはしゃべらないという子がほとんどでした。だからやっぱり身ぶり手ぶりで何をしたいのかとか、がんばって読み取りはしてました。

司 会 身ぶり手ぶりというのは海外は結構有効な気がする。

平井 はい。先生に指示をもらう時とかも腕をぱっとつかんでこっちに連れてってみたいなことをされていたから、私もがんばって子どもたちの名前を覚えるようにして、先生たちが誰を連れてきたいのかすぐわかるようにって。子どもたちの名前は早いうちからがんばって覚えようとしました。

と違うなと思って。日本だと近所の人とかでも全然知らないことが多いと思うけど、現地では町のみんな知り合いみたいな雰囲気がすごくあって、初めて行った場所でこういう場所があるんだというのが大きな気付きでした。

須崎 私は国内なんですけど、結構学部では移民の方に関する授業をやることが多くて、授業の中ではこういう権利が保障されてないとか、こういうふうに困ってるとか、ネガティブな部分を取り扱うことが多いため、何か過ごしにくいと感じてるのかなみたいなイメージがあったんですよ。だから暗いみたいなイメージがあったんですけど、実際お会いした時にすごい元気で、明るく楽しく生きてるんだなって。日本の中ではマイノリティなのかも知れないけど、コミュニティの中ですごい楽しそうに生活されてるのが、私の中で、あ、なるほどなみたいな。何かちょっと自分の中で偏見があったなというのと、振り返るきっかけになって、そこはすごくいい学びになったなと思いました。

司会 それは他の3人もあると思うんだけど、活動する前に持ってた偏見というか、イメージと活動後のイメージは 結構変わったと思うんだけど、それの体験があればちょっとお聞きしたいなと。

**鈴木** やっぱり暗いイメージがあるというのは何となく、 何でかわからないけど、なぜかあって、でも実際やってみ ることで、交流することで、あ、全然暗いイメージじゃな いんだなというのは感じましたね。

司 会 課題解決ばかり授業として挙がってるから。

須崎 そう。何かマイナスな感じが大きいなって思ってた んですけど。

鳶田 私はすごい田舎の町で、お金もあんまりなくて、おうちとかもトタンでできたおうちとか、窓がなくて、風がすごい吹いたりしたらゴミが入ってくるみたいな、そういうおうちに住んでるような経済的には厳しい地域だったんですけど、一緒にボランティア先でお世話になった方が、私たちの生活は貧乏だけど楽しく暮らしてるよみたいなこ

とをおっしゃっていて、何か日本での生活とかを現地の方に伝える時に、今大学生で課題が忙しくてとか、バイトに行ってみたいなふうに話すと、もうちょっと楽に生きていいんだよみたいに言われたりして、何かそこが実感させてくれたなと思います。

平井 私も基本は先生と私たち千葉大生のボランティアだけど、最初の日だけ説明を兼ねて英語が話せるベトナム人のボランティアの方がお手伝いしてくれて、話してる時にすごくドポップが好きなんだ、ブラックピンクが大好きなんだという話を聞かされて、私もドポップたまに聴くよみたいな、そういう共通の趣味とかを見つけると何かなおさら文化の壁とか国の壁みたいのをあまり感じなくて。何で今まで全員「外国人」みたいな括りで壁を感じたのかなと気付いたというか、知れたというか、そういうのが大きかったですね。

鈴木 それは私も似たような話があります。フェアトレードの事業者のつながりで、オンラインだったんですけど、フィリピンの方と交流した時に、「進撃の巨人」の話になったんですよ。で、私も見てたから、やっぱり何か楽し



む文化って一緒なんだな、同じ世界に生きてるんだなというのは感じました、全然違う世界の人だと思ってたから。 司会 ありがとうございます。最後に今後の目標を聞きたいと思います。

須崎 じゃあ私から。来年から社会人になるので。仕事の中で結構多国籍な方がいらっしゃる職場なのですけど。グロボラに参加して私の一番大きかった学びが、自分って意外と偏見持ってるんだなというところに気付かされたところだったので、そういうことに気付きながら、配慮しながらみたいな。偏見とかをとっぱらってみんなと交流しながら今後も仕事をできたらいいなって思います。それが目標かな。

今後の目標。個人の目標というよりは、フェアトレードのボランティアに入って、今その団体さんが千葉市でフェアトレードを盛り上げようというのをがんばってて、事業者を増やしたり、イベントを増やしたりみたいなことをやってて、私が入ってるサークルというか、学生団体にも声がかかってきたり、すごい広がってるなというのを個人的に感じてて。その中でも千葉市の人としてそのフェアトレードを意識して買い物をしてみたいなとか、小っちゃいことですけど、そういうのを常に頭の片隅にでも入れて生活していきたいなというのはあります。

★出 私はこのボランティアに参加する前までにも、海外のいろんな生活の仕方とかを高校生の時からちょっとずつ触れてきて知ってると思ってたんですけど、初めて行ったそのフィリピンの島で、やっぱりまた新しい発見がすごいたくさんあって、何か今までいろいろ知ったつもりでいたけど、まだまだ知らないことっていっぱいあるんだなと思ったし、国内のお話とか聞いても、国内でも知らないことがいっぱいあったというのに気付くことができたので、これからもそういう新しい発見をするために、自分から積極的に参加していきたいなと思っています。

平井 ベトナムに千葉大生は私を含めて5人で行ったんですけど、その5人全員の反省点として、ベトナム人の地元のボランティアとかと一緒に活動する時に、海外ボランティアとして地元の方と違う働きをするべきではなかったのか、ということがありました。でも、そういう働きができていなかったんじゃないのかという反省が帰国後に全員共通で挙げられたし、でもその反省は多分帰国した今の状態でも少しずつでも活かしていけると思うので、皆さんと話してそれを伝えたりとか。そういうことが今からでも少しずつできたらなと思っているけど、具体的にはまだあまり考えられてなくて、それをどうにかしたい。

司会是非、優秀な先輩方に。

須 崎 頭抱えちゃう。

司 会 相談してみてください。

平井 はい。

司会 じゃあ、第1セット目はこれで終わります。ありが とうございます。

司会 じゃあ座談会の後半戦をやっていきたいと思います。 まず、文化・慣習で驚いたことについて平井さんからお願 いしてもいいですか。

平井 はい。私はベトナムのハノイに行って、ハノイってベトナムの首都なのですごい大きいんですけど、一番驚いたのは、交通量がすごい。ベトナム人の主な交通手段って基本的にバイクなんですよ。電車はほとんど通ってないですし、でもバイクは一人一台持ってるみたいな感じなので、帰宅とか通勤とかラッシュの時間帯はもう道路にゼロ距離で隙間がないくらいバイクが連なってて。歩行者優先でもないので、歩行者は歩行者で自分で身を守らなきゃいけない。ベトナム人の方って皆さんほとんどマスクされてるんですけど、でも、そのマスクもコロナ予防かと思ったら排気ガス予防で、それぐらいいっぱいバイクが通ってるんですけど、歩行者は信号無視で道路を渡んなきゃいけな

い時とかあったりして、慣れるまですごい危険だったの で、それは一番驚きでした。

須崎 ヒラーモスクという行徳のモスクにお邪魔した時の話なんですけど、ムスリムの方たちの助け合いの文化がすごくて。東日本大震災があったじゃないですか。その時に、気仙沼、仙台の方に支援をしに、遠征を何回かしに行ったんですね。で、それはムスリムの中で助け合うという文化が根底にあるからそういう活動をしましたみたいなことをおっしゃってて、日本の人とか関係なく助けるみたいなことをおっしゃってて、何か日本ではなかなか見ないかも知れない。それはちょっとびっくりしました。

司会 それはムスリムの人がムスリムの人を助ける。

須崎 わけじゃなくて、ムスリムの方たちから、現地が 困ってるからという理由で、もう日本人と分け隔てなくみ んなにカレーを作りに行ったとおっしゃってて、すごい びっくりしました。

□ 会 いいですね。

須崎 そう、みんなボランティアで行って、現地でカレーを作って配給したりとか。そういうのがすごい根付いてて、他にもお勉強、普通に子どもたちが学習してるのをそのモスクの中で見てあげたりとか、そういう何か寺小屋的な感じの活動をされていて、今の日本じゃなかなかない。

 もたちも、すごい小っちゃい子どもたちも12時ぐらいまで外で遊んでるみたいな。周りの大人とかのサポートというか、目があるのでというのがすごい違うなと思ってびっくりしましたね。

司 会 自分も (ウガンダに) シャワーなくて、そこら辺の 雨水で体を洗ってたんですけど、水はちゃんとした?

ご書田でも、水も蛇□をひねっても出ない日とかあったので、その時は溜ってる雨水で。

司会 結構大変ですよね。髪の毛とかってどうしてましたか。

鳶⊞ 髪の毛も雨水で洗ってました。

司 会 自分は洗わなかったです。そうか、そうか。ありが とうございます。

お木 ちょっと似た話になるかも知れないんですけど、プログラム中にオンラインでフィリピンの方と交流する機会があって、すごい仲良くて、みんな。会ったことあるの?と聞いたら、オンラインで今日初めて会ったみたいな感じで。何かもう家族、ファミリーという感じで呼んでたので、今日初めて会った人が家族っていうんだとか。オンラ



インでも一人ではなくて、何人か映るんですよね、一つの 画面に。何か全然血はつながってないらしいんですけど、 仲の良さというのを感じました。

司会 授業を受けてても、日本だとやっぱりオンラインで 初めましてだと、みんな無言で、真顔で、チーンって感 じ。何が違うんだろう、仲の良さ。すぐ打ち解けられる のって、何か感じたことありますか。

意田 人と人との距離がまず違いますね。初対面であって も何か、もう人というだけで、何か人間というだけである 一定の距離が近いというか。それで初対面でも皆さん仲良 くしてくれるので、何か日本人がおかしいのかなと思うく らい、みんなすごい距離が近いんですよね。

司 会 確かに。ありがとうございます。次、失敗談というか、こんなことやっちゃったとか、そういうフランクな感じでお話があれば伺いたいと思います。

平井 わりと最初から最後までトラブル続きだったんですけど、何か最初はやっぱり英語を先生がしゃべれないので、ベトナム語を聞き取ることがどうしてもできないから。ベトナム人の方ってすごい大声でしゃべられるので、最初はただ会話をしてるだけなのに喧嘩してると思っちゃって、それがすごい恐かったりとか、何もやっぱり聞き取れなくてお手伝いが後から後からになっちゃったりしてて。最後も新型コロナに感染して帰国が遅れちゃったりとか。どたばたしててわりとトラブル続きだったんですけど、海外の人たちも完璧じゃなくても最初は別にいいんだよみたいな、あなたたちのことを労働力として見てるわけじゃないからと言ってくださって心が楽になったし、楽しめるようになったので、何か今ではいい経験だなと思っています。

司会 確かにコロナ禍の失敗談とかも出てきちゃうのはし ようがないですよね。

平井 5人で行ったってさっき言ったと思うんですけど、 5人中4人感染しまして、4人隔離されました。 司会仕方ない。どうしようもないですね。

高田 私は現地でビザを取らなきゃいけなかったんですけ
ど、取りに行った時に倍ぐらいの値段でぼったくられたと
いうのがあって、最初は全然気付かなかったんですけど、
しかもビザという、ちゃんとした所で取るようなものだか
らぼったくられることなんてないだろうと思ってたんですけ
ど、何か後々高かったなと思って調べてみたらすごい倍の
値段でぼったくられてて。何かその、おじさんたちもすご
い親切そうに見えるから信じ切ってたんですけど、あまり
人を信じてはいけない場面もあるんだなという失敗談です
(笑)

司会 ビザ関連はやりますよね。自分も40日いるのに30 日のビザしか発効されなくて、結局そのまま帰ってきました。全然大丈夫でした。ベトナムはどうでした?

平井 私さっき帰国遅れたと言ったじゃないですか。3日 遅れちゃったんですけど、パスポートのビザを貼ってくれるところに帰国予定日が書かれてて、その予定日とずれてたので、ビザ自体が遅れてるというか、期限が切れてると思われてしまって、空港の税関で止められて軍人に連れていかれて、オーバーステイの料金を払いなさいと言われちゃって。でも結局、オーバーステイじゃなくて予定日が違うだけだったので、結局ベトナムドンってめちゃめちゃ単位が大きいんですけど、200万ドンをATMから出させられて払って、やっぱりオーバーステイじゃなかったといって返されて、ちょっと便が危なかったので、税関にもう一回戻ってというのを帰国の時にやってすごい大変でした(笑)

 な感じで、正確に言うことができなくて。

司会 確かに恐いですね。ちょっとまあ、そういうことがあってもちゃんと生きて帰ってこられた。意外と何とかなると。最後までやり通せば意外と何とかなる。確かに、それはすべてのことで言えそうですね。ありがとうございます。次に、楽しい中での学びとかって何かありましたか?

平井 ベトナム滞在中、活動がない日にベトナムの少数民

族の村に行ったことがあって、そこは本当に山の中という か、山間部にあるのですが観光地としては自然豊かな所で 有名でした。その地元のガイドをやってくれた、案内して くれた方の話を聞いたら、その少数民族で、一般的なベト ナム語は話さないけど、英語と隣接する少数民族、違う民 族の言語と一般的なベトナム語を全部口頭で子どもに教え 伝えて観光業を成り立たせてるんだといわれて、へえ、す ごいなと思って。何か、足と自分の体を使って観光業を成 り立たせてるという感じで。最初案内してくれた方は少数 民族の方が3人いらして、3人で案内してくれるのかなと 思ったら、1人はガイドで、もう2人は売り子として来て て、自分たちが作った織物というか、製品を売り込むため に一緒にガイドとしてついてきて、拙い英語を使いながら 私たちに地元で取れたものとかをしっかり売り込んでらし て、私たちとまた違う世界にしっかり生きていらっしゃる んだなと思うと、何かもうちょっと自分も勉強をがんばら なきゃと思いました。

司会ありがとうございます。

お木 フェアトレードのボランティアってイベントをすることが多くて、イベントには他の事業者さんも来るんですよね。そこで、イランの人のフェアトレードとか、障害者支援施設の方とか、千葉市のイチゴとか、結構いろんな地域から関わってる人がいるので、それぞれいろんなことを聞ける。交流しながらいろんな人の思いがあるんだな、みたいなのは結構感じてて。私は映画を作ってるサークルにも所属してるんですけど、そこでよくお世話になってるカーカーでは、そこでよくお世話になってるカーカーですけど、そこでよくお世話になってるカーカーでは、そこでよくお世話になってるカーカーですけど、そこでよくお世話になってるカーカーですけど、そこでよくお世話になってるカーカーですけど、そこでよくお世話になってるカーカーですけど、そこでよくお世話になってるカーカーですけど、そこでよくお世話になってるカーカーでする。ことが多くでするようでする。ことが多くですけど、そこでよくお世話になってるカーカーでする。ことが多くでするようでする。ことが多くでするようでは、またいまでは、またいまする。ことが多くでは、またいまする。ことが多くでは、またいま

フェの店員さんが、ガザ地区のフェアトレードの事業をやってる人でもあって、人のつながりみたいなところも結構自分興味あるんだなというのに気付けた。 学びというか気付きなんですけど、そういうのがあって、ネットワークの広さとかいうのはすごい自分の中で楽しんでたなと思います。

★田 私はボランティア活動をする中で、地域の人と関わることがすごい多くて、地域の人と一緒に何かをするという活動のなかで、□コミみたいな感じで、私たちのボランティアの活動がそのオランゴ島という島の市長さんに伝わったみたいで、市長さんが是非会いたいと言ってくださって、お会いして。すごい歓迎してくださって、オランゴ島とその近くのシティ、もうちょっと栄えてる船に乗って行くところがあるんですけど、そこのツアーとかを市長さんが組んでくださったりして、休みの日とかにそのツアーに連れてってもらったり、一緒にお話をしたりというのがすごく楽しかったです。

日本人ボランティアが来てるということにすごい興味を 持ってくださって、島の人たちも喜んでるし、これから増 やしていきたいみたいなこともたくさん言ってくださった ので、自分たちが少しだけでも影響を与えられたのかなと 思って、すごい学びになりました。

司会 少しでもあっちに爪痕を残して帰ってきたというの は本当にすごい。最後に1人一言ずつ、次の履修生に向けて言葉をいただけたら。

鈴木 そうですね、フェアトレードと聞いて国際協力とか、そういうイメージを持つ人が多いかも知れないんですけど、私は最初は環境問題みたいな切り口から入った人で、最終的にはまちづくりとか人の交流みたいなものに興味あるんだなというのに気付けたし、他にも食品ロスとか、それから地球に優しいこと、人に優しいことみたいな切り口で入ってる人もいて、結構何か幅広くとらえられるというのが、フェアトレードのプログラムの良さだったなということに気付きました。

平井 海外ボランティアと聞いて、確かにすごいハードルが高そうに感じるとは思うんですけど、実際行ってみて、自分が知らなかった世界がこんなにあるんだという気付きとかを得られるすごい機会になると思うので、少しでも興味があったらちょっと勇気を出して参加してみるといいと思います。

須崎 私は海外に行きたかったんですけど、コロナもあって国内のプログラムに参加したんです。もう海外に行けるんで、是非このプログラムに参加するんだったら海外に行った方が学びは大きい。大変なことも多いのかも知れないけど学びはいっぱいあると思う。一方、国内のプログラムは自分で探せることもあります。先生に聞くでもいいですし、ネットで探すでもいいですし、自分でやれることは多分国内の方がいっぱいあると思うので、よかったら探してみてください。

意田 私もほとんど皆さんと一緒なんですけど、やっぱり 海外に行くのってすごいハードルが高いと思うけど、でも

全然自分ができることだけやったらいいのであって、向こうの方も経験の共有というか、お互いに新しいことを知れたらいいなみたいなスタンスできてると思うので、何かもっとチャレンジしたくなったら、すぐチャレンジしたらいいと思う。国内のプログラムも、「移民コミュニティ」って、それだけ聞くと何してるんだろうと最初思ってたんですけど、何かすごい内容がめちゃめちゃ濃かったり。皆さん自分たちで企画から始めて行動したりとかもあって、想像してるよりずっと深いというか、濃いと思うので、経験できるんだったら経験するべきだと思います。

司会 ありがとうございます。最後に、ボランティアには どんどんみんなに参加してもらいたいと思うし、参加して みたら意外とハードルは低いことに気がつく。けど、終 わった時にはすごい学べてるというのがみんなの共通の意 見だと思うので、是非参加してみてください。じゃあ、これで座談会を終わりにします。ありがとうございました。



# LINUTS TO THE

#### 編集後記

新型コロナウイルスの影響による行動制限が始まり早2年、今年度から海外プログラムが復活し、国内プログラムも対面のボランティアが増加しました。コロナ禍最初のグロボラ履修生だった私は、「オンラインでもできるボランティアが沢山あること、オンラインだからこそ参加のハードルが下がるというメリットがあること」など、コロナ禍だからこその学びを得ることができました。しかし、今年度TAとしてグロボラに参加して感じたことは、ボランティア活動では相互理解が重要であり、初対面の人間がその相互理解を深めるためには、やはり"対面"のコミュニケーションに勝るものはないということです。手放しに対面の活動を勧めるわけではありませんが、今後の履修生の皆さんには、対面とオンラインを上手く組み合わせながら、効果的にボランティアに取り組んでいただきたいなと思います。

一方で、コロナ禍終息後も継続されてほしいと思うことは、グロボラを通した、国内へ の視点回帰です。

私自身、学部では中東の移民政策について研究していましたが、グロボラで国内プログラム"移民コミュニティとの交流"に参加して以来、日本の移民政策や多文化共生のあり方にも興味を持つようになりました。今年度、関連するインターンやボランティアに参加してみて、移民に関して日本にも多くの課題があり、さらには今後深刻化するであろうことを知り、「灯台下暗し」を実感しました。

自由に移動できる今、「せっかくなら海外プログラムに!」と思う方も多いかもしれませんが、参加前後に「では日本ではどうなのか、類似の問題があるのか、得た学びを活かす方法はないか」ぜひ考えてみてほしいなと思います。そして国内プログラムに参加した皆さんは、次はぜひ海外プログラムに参加してみてください。

最後になりましたが、今年度履修生の皆さん、本書作成に協力してくださった皆さん、そして佐々木綾子先生、本当にありがとうございました。来年度も多くの学生がグロボラに参加してくださることを願います。

